

# 黒石すばるの会の活動に参加してみませんか？

## 《会員募集のご案内》

平成29年3月作成

黒石すばるの会 会長 工藤能継

(問) 黒石すばるの会は、どんなことをしている会ですか？

(答) 『黒石に天文台を！』

『未来を担う子ども達に本物の星空と宇宙規模の夢と希望を届けたい！』

平成4年4月に発足したこの会は、黒石の子ども達をはじめ多くの市民のみなさんに、神秘とロマンあふれる星や宇宙の世界に触れ、夢や感動を与える施設として、市に公立の天文台を建設していただくため、その運動をしている会です。

また、たくさんの市民が星や宇宙に親しみ体感していただくための様々な活動を行っています。

(問) 具体的にどのようなことをしているのですか？

(答) ・天文台の建設運動（市への要望活動など）

・星を見る会の開催（子ども達や一般市民を対象に4月～10月の毎月1回）

・星空情報の発行と市内の各小・中学校への配布（平成10年から毎月発行、現在227号）

小学4年生以上の各学級に掲示を依頼し配布しているほか、公民館などや会員にも配布

・市教委主催の天文講座「銀河宇宙探検隊」への指導・協力（小4～高校生対象）＝人材育成

・学校や各種団体からの星空観察会等の指導依頼に対する支援活動

・理科教材の研究、天文に関する情報収集や提供

(問) どんな人達が入っているのですか？

(答) 現在の会員数は46人で、10代から80代までと年齢の幅がとても広く、この内4割は小・中学校の先生（OB含む）で、その他天文愛好家・一般市民となっています。また、黒石市内と市外・県外の割合が半々です。近年は、人材育成として指導してきた「銀河宇宙探検隊」の修了者が15人と増えています。

(問) 入会するためには、何か条件があるのですか？

(答) 大学生を含む社会人という年齢制限があるだけで、市内・市外を問わず会の趣旨に賛同いただける方ならどなたでも入会できます。天文に関して初心者でもかまいません。なお、高校生は不可です。

(問) 会費はあるのですか？

(答) 年会費が2,000円です。ほとんどが毎月発行の「星空情報」の印刷代や郵送料になります。

(問) 入会しても仕事が忙しくてなかなか出席できそうになく、かえって迷惑になるのではと思っているのですが？

(答) みなさん仕事などをもちながらの活動なので、負担が大きくなるよだと長続きしないと思います。そこで、“細くても、長い活動を、できる人達で”をモットーにしています。仕事の都合で直接参加できなくても、その分職場や地域等ですばるの会のことを話題にさせていただくとか、入会を呼びかけるなど、間接的に活動に参加していただくという考え方です。

また、入会しても活動について強要することはありません。

(問) 黒石すばるの会で、市に要望している内容は？

(答) 市に対する要望はこれまで6回行いましたが、その内容や状況は以下のとおりです。

【第1回要望】 平成4年2月1日 教育長へ要望 すばるの会発足前に賛同者32人の連名で  
《市教育の森整備構想の生涯学習センターに、(仮称)黒石市天文台の設置してほしい》

- ・天体望遠鏡は口径25～30cmの屈折式でドームに納め屋上に建設
- ・天文に関する講座の開設や展示・情報提供ができる部屋の確保
- ・天文事業を推進するため専任の職員を配置

【第2回要望】 平成4年5月2日 市長へ直接要望  
《内容は第1回と同じ》

【第3回要望】 平成4年10月27日 市長へ直接要望  
《すばるの会が考える天文台像》

- ・天文台の必要性・意義と可能性(学校理科教育・団体・個人のネットワーク化、星のまち黒石)
- ・口径25cm屈折望遠鏡の選定理由
- ・夜間の利用(開かれた天文台)と科学館的付帯設備の整備
- ・具体的な設備と機器の一覧と経費

【第4回要望】 平成4年11月16日 市長へ文書要望  
《すばるの会が考える天文台の運用計画》

- ・天文台が完成したときの運用の目的と基本方針、事業・イベント例
- ・天文台完成までの体制づくり  
(市教委への要望) 天文講座の継続、若年指導者の育成など  
(すばるの会の役割) 市民観望会の開催、天文分野の情報提供、学校や各種団体からの指導依頼に対する支援活動、指導者育成への協力など

※以上の4回要望した結果、生涯学習センターの計画に未来を担う子ども達のための科学館的な施設と屋上に天文台の設置が認められたが、市の財政難から凍結となった。

【第5回要望】 平成15年2月10日 市長へ直接要望  
《要望内容を全面的に見直し、東北・北海道で初の“図書館併設型天文台”として要望》

- ・口径50cm反射望遠鏡と小規模プラネタリウムの設置
- ・図書館と天文台の有機的な運用により、両施設の機能や付加価値を高められる利点

※その後も財政難が続き、生涯学習センターの建設計画そのものが白紙撤回となった。

そのため、会としても市への要望より天文台実現の機運を高めるため、子ども達や市民を対象にした「星を見る会」や天文現象に合わせた観望会の開催、人材育成を図る活動にシフトした。

【第6回要望】 平成24年8月10日 市企画財政部企画課へ文書で提案  
《旧農業試験場(境松)跡地の利活用計画を策定するため、市が設置した「検討委員会」で市民の意見を募集したが、それに対して提案書を提出》

- ・生涯学習施設に、天体望遠鏡・天体観測室・簡易プラネタリウム等の天文施設(公立天文台)を設置
- ・多目的広場に、星空観察ができるように見晴らしが良く、スイッチによる街灯の点灯・消灯が可能な広場を設置

平成4年の発足時から、長年“天文台の建設運動”を市へ働きかけてきましたが、残念ながらいまだに実現していません。しかし、黒石の子ども達のために天文台建設の夢を諦めることなく、これからも全会員が力を合わせ、星を楽しみながら運動を継続していきたいと考え活動しています。

---

## 入会方法

入会いただける方は、会員を通すか会長または事務局長へ直接ご連絡下さるようお願いいたします。

会長	工藤能継	〒036-0344	黒石市大字高賀野字高田112-1	TEL 0172-52-7886
事務局長	工藤剛	〃	〃	108-1 52-4485